

現代の口訣の構築 「葛根湯」と「当帰芍薬散」の 口訣を考える

木村 本セッションでは、一つの処方を横断的に検討して“現代の口訣”を導き出します。すでに、抑肝散加陳皮半夏と補中益気湯(2015年)、五苓散と柴胡加竜骨牡蛎湯(2016年)、人參養榮湯と加味帰脾湯(2017年)、桂枝茯苓丸と加味逍遙散(2018年)、八味地黄丸と白虎加人參湯(2019年)、半夏厚朴湯と柴苓湯(2021年)について検討してまいりました。

そして今回は、葛根湯と当帰芍薬散について検討いたします。

葛根湯の口訣を考える

木村 葛根湯は桂枝湯に葛根・麻黄が加わった処方であり、効能・効果は「感冒、鼻かぜ、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛み」です。

原典は『傷寒論』で、「太陽病、項背強ばること几几、汗なく悪風する者は葛根湯之を主る」「太陽と陽明の合病は必ず自下利す。葛根湯之を主る」と記されています。また、『金匱要略』瘧疾喝病では瘧病(後頸部・背部が硬直して、腰背が反り返る病態。破傷風による角弓反張など)に関する解説があります。

葛根湯は、一般的には熱性疾患の感冒初期に用いる代表的な処方であり、太陽病表実証、外感風寒による悪風・頭痛・無汗および項背部のこわばりに用いる処方です。

葛根湯の臨床応用について、浅田宗伯は『勿誤薬室方函口訣』で、「此方外感の項背強急に用いることは五尺の童子も知ることもなれども、古方の妙用種々ありて思議すべからず。譬えば、積年肩背に凝結ありて其痛時々心下にさしこむ者此方にて一汗すれば忘るるが如し」と述べています。

尾台榕堂は『類聚方広義』頭注に、「此の処方、項背強急を主治するなり(項背強急+発熱悪寒+脈浮数)、髄膜炎や破傷風、産後の感冒で、瘧撃して気絶するもの、天然痘の初期、麻疹の初期、咽喉の腫痛、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎」と様々な熱性疾患を挙げています。

このように葛根湯は、様々な熱性疾患の初期の項背部のこわばり、慢性的な肩背部のこり、さらには目・耳・咽喉・皮膚疾患の初期にも用いられる処方です(図1)。

図1 葛根湯

構成生薬

葛根、麻黄、桂皮、芍薬、甘草、大棗、生姜(桂枝湯+葛根・麻黄)

効能・効果

感冒 鼻かぜ 頭痛 肩こり 筋肉痛 手や肩の痛み

原典『傷寒論』

「太陽病、項背強ばること几几、汗なく悪風する者は葛根湯之を主る」
「太陽と陽明の合病は必ず自下利す。葛根湯之を主る」

『金匱要略』瘧疾喝病

「太陽病、汗なくして小便反てて少なく、氣上って胸を衝き、口噤し語ることを得ず 剛瘧を作さんと欲す。葛根湯之を主る」
瘧病：後頸部・背部が硬直して、腰背が反り返る病態。破傷風による角弓反張など。

熱性疾患の感冒初期に用いる代表的な処方：太陽病表実証
外感風寒による悪風・頭痛・無汗+項背部のこわばり

浅田宗伯『勿誤薬室方函口訣』

此方外感の項背強急に用いることは五尺の童子も知ることもなれども、古方の妙用種々ありて思議すべからず。譬えば、積年肩背に凝結ありて其痛時々心下にさしこむ者此方にて一汗すれば忘るるが如し。

独活・地黄を加えて産後柔中風を治し
蒼朮・附子を加えて肩痛臂痛を治し
川芎・大黄を加えて脳漏(蓄膿症)および眼耳痛を治し
荆芥・大黄を加えて疔瘡黴毒(梅毒)を治するが如き

尾台榕堂『類聚方広義』頭注

- 此の処方、項背強急を主治するなり：項背強急+発熱悪寒+脈浮数
- 髄膜炎や破傷風、産後の感冒で、瘧撃して気絶するもの、天然痘の初期
- 麻疹の初期
- 咽喉の腫痛、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎

様々な熱性疾患の初期の項背部のこわばり+慢性的な肩背部の凝り、目・耳・咽喉・皮膚疾患の初期

● 更年期障害に伴う後頸部のほりと頭痛に葛根湯が有効であった一例

木村 産婦人科領域から、更年期障害に伴う後頸部のほりと頭痛に葛根湯が有効であった症例を矢内原先生にご紹介いただきます。

矢内原 症例は52歳の女性で、主訴は頭重感、頭痛、吐き気、後頸部のほりです(図2)。



初診時診断は更年期障害で、水滯症状を認めていたことから半夏白朮天麻湯と後頸部のほりに対して葛根湯の頓用を開始しました。服用開始1ヵ月半後には、徐々に症状は軽快しており、約4ヵ月後には症状は消失しました。

更年期障害の特徴の一つは症状が多岐なことであり、東洋医学的観点からも気血水の異常が多岐にわたる病態であると考えられます。本症例は、水滯症状と後頸部のほりがあったため、2剤の処方が必要と考えました。半夏白朮天麻湯は頭重感、頭痛、吐き気の水滯(虚証)に、葛根湯は後頸部(表在)のほりを有する場合に有効であり、更年期の様々な症状に対応することができました。葛根湯は即効性もあり、頓用の希望が多い処方です。

木村 肩こりを訴える女性患者さんは、葛根湯にどのような印象をお持ちですか。

矢内原 葛根湯は服用後速やかに症状が軽快するので、“切らすのが嫌”という患者さんが多くいらっしゃいます。

木村 更年期では巡りの悪さが顕著になることで肩こり

を訴える方も多くなると思います。先生は肩こりに対して葛根湯のほかにはどのような処方を使われていますか。

矢内原 肩こりにほてりなどの血管症状が現れている場合には桂枝茯苓丸、不眠や不安感などの精神症状が現れている場合には加味逍遙散を使用することが多くあります。また、頭痛のみで血圧が高めの場合は釣藤散を使用することもあります。

● 肩こり、耳痛に葛根湯が有効であった症例

木村 肩こりだけでなく耳痛にも葛根湯が有効であった症例について、新谷先生からご紹介いただきます。

新谷 症例は58歳の女性で、主訴は右耳痛、肩こりです(図3)。X年7月16日に右耳痛、痰が絡む、肩こり(右肩から首、耳まで)があり、さらに同14日から身体の中が熱いとのことでした。肩こり・感冒症状に対して葛根湯を処方したところ、肩こりと右耳痛が数日で改善したため、葛根湯の継続処方を希望されました。その後は、1~2回/年の感冒症状、首・肩こりがあるときに来院され、葛根湯の服用3日以内で症状は改善しています。

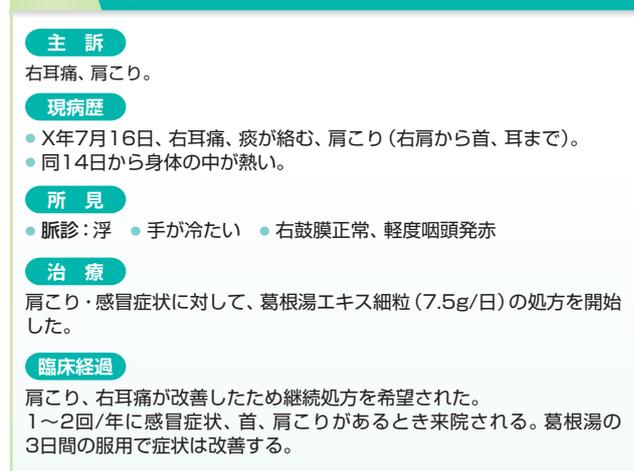
木村 葛根湯の服用で耳痛も改善したということですか。

新谷 急性の感冒症状に伴う中耳炎や耳下腺炎、リンパ節

図2 更年期障害に伴う後頸部のほりと頭痛(52歳 女性)



図3 肩こり、耳痛(58歳 女性)



第二部

炎などの症状に対して、葛根湯を多く使用しています。即効性があるので、大半の患者さんは数日の服用で症状は改善します。

木村 葛根湯と葛根湯加川芎辛夷をどのように使い分けていますか。

新谷 膿性鼻汁や上顎部に痛みがある方には葛根湯加川芎辛夷、感冒初期や耳症状のある方には葛根湯を選択することが多くあります。

● 間質性膀胱炎の症状増悪時に葛根湯が奏効した症例

木村 肩こりによって悪化した頻尿に葛根湯が奏効した症例について、中村先生にご紹介いただきます。

中村 間質性膀胱炎は、膀胱の非特異的な慢性炎症を伴い、頻尿・尿意亢進・尿意切迫感・膀胱痛などの症状を呈する疾患で、膀胱鏡で間質性膀胱炎に特異的に認めるハンナー潰瘍病変が確定診断となります。本症は原因不明のため根治療法はなく、難病に指定されています。治療は鎮痛薬・抗うつ薬・抗アレルギー薬などの薬物治療を中心とした対症療法が行われます。冷えや刺激物の摂取、ストレスによって症状の増悪を認めるため、漢方治療が症状のコントロールに有効なケースも多くあります。

症例は55歳の女性で、主訴は畜尿時痛、頻尿です(図4)。1年前から畜尿時痛と頻尿(15~20回/日)があり、他院で再発性膀胱炎や過活動膀胱の診断で治療されていましたが、症状が改善しないため当院を受診しました。間質性膀胱炎の診断にて薬物療法を開始したところ症状の改善が認められました。治療開始6ヵ月後には薬剤の減量を開始しましたが、ストレスや食事内容によって膀胱痛、頻尿が悪化するため、従来から使用している薬剤の服用量は自己調節して経過をみていました。

感冒症状やひどい肩こりがあるときに膀胱痛や頻尿が悪化するとの訴えがあったことから、症状発現時に葛根湯を頓用で使用したところ、症状の悪化はみられなくなりました。

図4 間質性膀胱炎(55歳 女性)

主訴

畜尿時痛 頻尿。

既往歴

うつ病。

現病歴

- 1年前から畜尿時痛および15~20回/日の頻尿があり、他院で再発性膀胱炎や過活動膀胱と診断され治療されるも症状は改善せず、当院受診となった。膀胱鏡でハンナー潰瘍を認め、間質性膀胱炎と診断し治療を開始した。
- アミトリプチリン塩酸塩(20mg/日)、プレガバリン(300mg/日)、スプラタストシル酸塩、ラフチジンの服用で膀胱痛はVAS2まで改善し、頻尿も10回/日程度におさまった。
- 6ヵ月後には薬剤の減量を開始するも、ストレスや食事内容によって膀胱痛および頻尿が悪化するため、アミトリプチリン塩酸塩およびプレガバリンの服用量は自己調節して経過をみている。

検査所見/東洋医学的所見

- 身長:158cm、体重:50kg、BMI:20。血液検査でHb値は10.0mg/dLと軽度の貧血あり。
- 皮膚は乾燥、冷えあり。疲れやすく、不眠あり、落ち込みやすい。雨天や気候の変化で体調をくずしやすい。
- 脈診:やや沈、細
- 舌診:淡紅色、薄白苔、舌下静脈怒張(一)
- 腹診:腹力弱い、振水音なし、臍部圧痛

治療・臨床経過

- 感冒症状やひどい肩こりがあるときに膀胱痛や頻尿が悪化するとの訴えがあり、感冒症状の初期や肩こりが起きたときに葛根湯エキス細粒(7.5g/日)を頓用で処方したところ、葛根湯の服用で膀胱痛や頻尿の悪化がみられなくなった。
- 現在に至るまで葛根湯の頓用を継続している。

木村 間質性膀胱炎の治療では、患者さん個々の痛みの悪化要因を見つけて、それに対応することが大切ということですか。

中村 間質性膀胱炎に特徴的な頻尿や膀胱痛などの症状は、体調不良やストレスなどで悪化するため、全身状態を健全に保つことが重要です。本症例のように症状発現時に速やかに葛根湯を服用することで、間質性膀胱炎に伴う症状の増悪を抑えることができます。

● 乳腺炎に葛根湯が有効であった症例

木村 葛根湯は肩こりだけでなく、乳腺炎にも臨床応用がされています。葛根湯が繰り返す乳腺炎に有効であった症例を佐々木先生にご紹介いただきます。

佐々木 症例は33歳の女性で、主訴は繰り返す乳腺炎で



す(図5)。X年6月7日に第一子を正常出産、母乳は多量に分泌されます。6月中旬頃から、両乳頭部の湿潤・紅斑・びらん・痛みがあり、母乳外来での治療では症状の改善がみられないため、6月29日に当科を受診しました。

葛根湯の服用を開始し、洗浄・ヘパリン類似物質クリームと授乳・母乳うっ滞予防マッサージは継続としました。再診時(7月11日)には、“すぐに治りました”とのコメントがあり、再燃はありません。

乳腺炎に対する葛根湯について、『医法円通 巻4 葛根湯円通応用法』に「足陽明胃経は眼瞼・乳房を走行しており、同部位に風熱がこもっている病態に対して葛根湯が熱を発散させることで治療できる」ことが記載されています。

葛根湯は温めて発散する方剤ですが、葛根や芍薬などの冷やす生薬も含まれているため、風熱にも使用が可能です。葛根が乳汁分泌を促し、腺機能にも作用して排膿を促します。特に乳腺開口不全でとどまっているような乳汁分泌を促し、逆に乳汁分泌過多のときにも有効です。また、葛根湯は乳児への影響はないとの記載が多くあります。

木村 「乳腺炎ケアガイドライン2020」¹⁾では、乳腺炎治療における葛根湯について「CQ5：乳腺炎の女性が葛根湯

を服用すると、乳腺炎症状(発熱・発赤・疼痛・腫脹)が改善するか?」に対しては、「今回は該当する研究が見つからず、エビデンスが存在しなかった」としつつも、「乳腺炎症状の改善を期待して慣例的に用いられている」と記載されています。

そこで、葛根湯が有効な乳腺炎の特徴について考えたいと思います。葛根湯を使用される際のポイントを教えてください。

佐々木 症状発現後早期から葛根湯を服用することがポイントです。膿瘍形成や硬結が強くなってしまった場合は、抗生剤と併用することでより効果が高まることが期待されます。

● 葛根湯により乳腺炎が治癒した1例

木村 岸本先生も葛根湯により乳腺炎が治癒した症例を経験されていますので、ご紹介いただきます。

岸本 症例は25歳の女性で産後3ヵ月、主訴は右乳房痛です(図6)。X月16日夕より右乳房に軽度の痛みがありました。同日の22時頃から悪寒とともに右乳房痛が悪化し、張り感も出現しました。体温は38.5℃で、クーリングで

図5 乳腺炎(33歳 女性)

主訴

乳腺炎を繰り返している。

既往歴

アトピー性皮膚炎。ここ数年は保湿剤で落ち着いている。

現病歴

- X年6月7日：第一子正常出産。母乳はたくさん出る。
- 6月中旬～：両乳頭部湿潤・紅斑・びらん・痛み。母乳外来でステロイド外用を処方されるもよくなるらない。
- 6月29日初診：局所熱感・膿瘍形成なし。

所見

- 中肉中背
- 脈診：浮数
- 腹診：腹力3/5
- 舌診：淡白、湿潤、胖大

治療・臨床経過

- 葛根湯エキス細粒(7.5g/日)、洗浄・ヘパリン類似物質クリーム、授乳・母乳うっ滞予防マッサージは継続。
- 7月11日再診時：“すぐに治りました。”とのコメントあり。再燃なし。

図6 乳腺炎(25歳 女性、産後3ヵ月)

主訴

右乳房痛。

現病歴

- X月16日夕より右乳房痛軽度あり。
- 同日 22時頃に悪寒とともに右乳房痛悪化、張り感も出現した。体温：38.5℃、クーリングにて37℃台まで解熱するも乳房痛は不変で頭痛も認めため、翌日当院を受診した。

所見/東洋医学的所見

- 身長：164.5cm、体重：57.5kg、BMI：21.1、体温：37.2℃、血圧：118/75mmHg、脈拍：97拍/分。
- 乳房視触診：右内側(AB領域)に発赤、圧痛あり。
- 白血球数：6,200/ μ L(好中球 78.5%)、CRP：0.78mg/dL
- 脈診：浮数緊
- 舌診：淡紅色、舌苔：薄

治療・臨床経過

- 葛根湯エキス細粒(7.5g/日)を選択した。
- X月18日 再診：葛根湯エキス細粒 5g服用で解熱。右乳房自発痛は改善した。
- X月21日 再診：右乳房自発痛、圧痛とも消失し、終診となった。

第二部

37℃台まで解熱しましたが、乳房痛は不変で頭痛も認めてきたため、翌日に当院を受診しました。

東洋医学的所見から葛根湯を処方したところ、翌日(X月18日)の再診時には葛根湯の服用で解熱し右乳房自発痛は改善、3日後(X月21日)の再診時には右乳房自発痛・圧痛ともに消失していたため終診となりました。

木村 どのような患者さんに葛根湯は有効ですか。

岸本 感冒と同様に、乳腺炎でも初期の段階で用いることが重要です。しかも、かなり早く効くという印象があります。

● 葛根湯の症例(乳腺炎の2症例、蕁麻疹の症例)

木村 乳腺炎の2症例と蕁麻疹の症例について、陣内先生にご紹介いただきます。

陣内 症例1は33歳の女性で、主訴は乳房の張り・痛みです。初産後2日目の夜より急激な乳腺拡張と激痛で眠れないような状態でした。葛根湯(1包：3.75g)の服用後に母乳が自然と勢いよく流出し、それによって乳房の張りが軽快しました。さらに2時間後に1包を服用すると、同様に母乳流出後に乳房の緊張がかなり緩和されて眠ることができ、翌日以降も葛根湯の2～3包/日の服用で急激な乳腺拡張と激痛を抑えることができています。

症例2は30歳の女性で、主訴は母乳が詰まりやすい・乳房のしこりです。初産後1ヵ月から母乳の詰まりと乳房にしこりがあり、母乳間隔が1時間以上あくと乳房が張って辛いということで産後3ヵ月に当院を初診しました。葛根湯の2～3包の服用により母乳の出がよくなり、乳房の張り・しこりが軽快しました。

蕁麻疹の症例は、1歳2ヵ月の男児です。12月の寒さが厳しい日の外出後に、体幹・背中・太ももに赤い膨疹が出現しました。葛根湯(1包：2.5gの1/4量程度)を服用すると症状は速やかに消失しました。その後も外出時に葛根湯を少量服用することで蕁麻疹様の皮疹を予防できています(図7)。

木村 蕁麻疹の症例は1歳2ヵ月でしたが、漢方薬の服用のコツや工夫を教えてください。

陣内 本症例のように1歳前後のお子さんの場合、口の前に出されたものは味に関係なく口に含んでくれます。エキス剤を少量のお湯で溶いていただいて、スプーンで口の前にもっていきます。ザラザラ感が気になるようならレンジで加熱するときれいに溶けます。

図7 葛根湯の症例(乳腺炎、蕁麻疹)

乳腺炎 症例1 (33歳 女性)

主訴

乳房の張り・痛み

所見

BMI：24.3。脈は緊張よく浮。

臨床経過

初産後2日目の夜より急激な乳腺拡張(カチカチ)と激痛。葛根湯エキス細粒1包(3.75g)を服用後、母乳がダァッと流出し乳房の張りが軽快した。2時間後さらに1包を服用し、同様に母乳流出後に乳房の緊張緩和。翌日からも2～3包/日を服用することで急激な乳腺拡張・激痛を抑えることができた。

乳腺炎 症例2 (30歳 女性)

主訴

母乳が詰まりやすい・乳房のしこり

所見

BMI：19.5。脈の緊張中等度、中間。

臨床経過

初産後1ヵ月～母乳が詰まり乳房にしこりができる。母乳間隔が1時間以上あくと乳房が張って辛い。産後3ヵ月で当院を初診した。葛根湯エキス細粒1包(2.5g)を2～3包/日服用。母乳の出がよくなり、乳房の張り・しこりが軽快した。産後9ヵ月で終診。

蕁麻疹 (1歳2ヵ月 男児)

所見

体格良好。

臨床経過

12月の寒さが厳しい日の外出後に、体幹・背中・太ももに赤い膨疹が出現した。葛根湯エキス細粒(1包：2.5gの1/4量程度)を服用すると蕁麻疹がきれいに消失した。外出時は少量内服することで蕁麻疹を予防できるようになった。

● 葛根湯の症例について

木村 シンポジストの先生からご紹介いただいた、葛根湯の症例についてまとめます。自覚症状は肩こりを中心に、乳房の症状や皮膚症状がありました。特に、効果発現までの期間が短い症例が大半でした(図8)。

頸・肩こりについて、『勿誤薬室方函口訣』では「外感の項背強急」だけでなく「積年肩背に凝結」が記載されています。また、矢数道明は「項背部の緊張を緩解することから、眼・耳・鼻の炎症等に応用される。これらの場合は必ずしも脈は浮とならないし、悪寒や発熱はなくともよいのである」と解説しています。そのようなことから、項背部のこわばりとしては、外感風寒による悪風・無汗・頭痛の他にも、太陽膀胱経の経気の流れのうっ滞による項背部のこわばりに有効ではないかと思えます。

乳腺炎・乳汁不足については、『医方円通』では「足陽明胃経である乳房の邪気に対して、葛根湯で熱を発散させる

ことで治療する」、矢数道明は「項背に限らず、体表部のどこかに、多くは上半身に限局性の化膿性の浸潤があるときに用いる」と解説しています。

蕁麻疹については、龍野一雄は「急性湿疹、蕁麻疹等の皮膚病で分泌がない(無汗とみる)」ものに用いると解説し、さらに「表実でその実が項背の緊張として現れるか、或は、体表部の限局性緊張として現れるかである。熱を伴うときと、然らざるときとがある」と述べています。

葛根湯は主薬の葛根がポイントで、①胃気で津液を上昇、②陽明は筋肉を主る、という効能が大切であると思います(図9)。

ご紹介いただいた症例を改めて見ると、項背部あるいは肩、乳房、体幹などに表実の所見があり、その実が項背の緊張または体表部の限局性の緊張として現れる、そのような症例に葛根湯は有用ではないかと考えられます(図8)。

図8 葛根湯の症例について

所見	矢内原先生	新谷先生	中村先生	佐々木先生	岸本先生	陣内先生	
	52歳女性	58歳女性	55歳女性	33歳女性	25歳女性	33歳/30歳女性	1歳男児
	更年期障害	右耳痛	間質性膀胱炎による頻尿	乳腺炎	乳腺炎	乳腺炎	蕁麻疹
体格BMI	20.3	中肉中背	20.0	中肉中背	21.1	24.3/19.5	—
自覚症状	頭重感・頭痛吐き気後頭部の張り	右耳痛痰が絡む肩こり	肩こりにより頻尿が悪化	両乳頭部湿潤紅斑・痛み	右乳房痛頭痛悪寒・発熱	乳房の張り痛み	膨疹
後頭部の張り	後頭部	右肩から首・耳まで	肩こり	—	—	—	—
脈	浮緊	浮	やや沈	浮数	浮数緊	浮/中間	—
効果発現までの期間	1日	1~2日	3日以内	1日	1日	1日	数分
体表の状態	後頭部張り	耳頸肩こり	肩こり	乳房の張り	乳房の張り	乳房の張り	膨疹
表実	後頭部	耳頸肩	肩	乳房	乳房	乳房	体幹背中大腿

表実でその実が項背の緊張または体表部の限局性緊張として現れる

当帰芍薬散の口訣を考える

木村 当帰芍薬散は当帰、川芎、芍薬、茯苓、朮、沢瀉で構成される処方で、効能・効果は「比較的体力が乏しく、冷え症で貧血の傾向があり、疲労しやすくとときに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸などを訴える次の諸症：月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後あるいは流産による障害(貧血、疲労倦怠、めまい、むくみ)、めまい、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ」です。

原典の『金匱要略』では、陰虚証の瘀血・血虚と水毒の病態、主に婦人の腹痛に用いられる処方であると記されています。当帰芍薬散と腹痛について、有持桂里は『稿本方輿輦』で「男子疝にて下者と同じ様なる所へよきなり。当帰芍薬散は腹痛を主とする薬なり」と述べており、当帰芍薬散は腹部の冷えによる痛みで使用されることが示されています。

また、当帰芍薬散の臨床応用は幅広く、「和血+利水」「建中湯証+水気」または「逍遙散証+痛み」があり、神経症状は全身の体質的に把握することが大切であることが示されています(図10：次頁参照)。

● 月経困難症に当帰芍薬散が有効であった一例

木村 当帰芍薬散は婦人科領域で頻用される処方です。矢内原先生に月経困難症に当帰芍薬散が有効であった症

図9 葛根湯の応用

〈頸肩こり〉

- 後頭部の張り 頭重・頭痛 52歳女性 脈浮 頭 後頭部 → 太陽膀胱経
- 右肩から頭・耳までのこり 58歳女性 脈浮 耳
- 肩こりにより間質性膀胱炎の頻尿が悪化 56歳女性 脈やや沈
→「勿誤薬室方函口訣」「外感の項背強急」「積年肩背に凝結」
→ 矢数道明「項背部の緊張を緩解することから、眼・耳・鼻の炎症等に應用される。これらの場合は必ずしも脈は浮とならないし、悪寒や発熱はなくともよいのである」

葛根湯

葛根 麻黄 桂皮 芍薬 甘草 大棗 生姜
項背部のこわばり
① 外感風寒による悪寒・無汗・頭痛
② 太陽膀胱経の経気の流れのうっ滞

〈蕁麻疹〉

- 寒い日の外出時1歳男児
→ 龍野一雄
「急性湿疹、蕁麻疹等の皮膚病で分泌がない(無汗とみる)」

〈葛根〉 帰経：脾胃(主に陽明に作用)

- ① 胃気で津液を上昇→項背筋の硬直を緩和
- ② 陽明は筋肉を主る→解肌退熱・透発斑疹

〈乳腺炎・乳汁不足〉

- 乳腺炎を繰り返している33歳
- 悪寒・発熱とともに乳房痛・張り感が出現した25歳
- 乳房の張りとおもひの33歳・30歳
→「医方円通」足陽明胃経である乳房の邪気に対して、葛根湯で熱を発散させることで治療する。
→ 矢数道明
「項背に限らず、体表部のどこかに、多くは上半身に限局性の化膿性の浸潤があるときに用いる」

龍野一雄

「表実でその実が項背の緊張として現れるか、或は、体表部の限局性緊張として現れるかである。熱を伴うときと、然らざるときとがある」

第二部

図10 当帰芍薬散

構成生薬

当帰、川芎、芍薬、茯苓、朮、沢瀉

効能・効果

比較的体力が乏しく、冷え症で貧血の傾向があり、疲労しやすくときに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸などを訴える次の諸症：月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後あるいは流産による障害（貧血、疲労倦怠、めまい、むくみ）、めまい、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ

原典「金匱要略」

婦人妊娠病篇 「婦人懐妊、腹中疝痛するは、当帰芍薬散之れを主る」
婦人雜病篇 「婦人の腹中の諸疾痛は当帰芍薬散之を主る」

陰虚証の瘀血・血虚と水毒の病態+主に婦人の腹痛に用いられる処方

浅田宗伯「勿誤薬室方函口訣」

「この方は吉益南涯得意にて諸病に活用す（中略）全体は婦人の腹中疝痛を治するが本なれども、和血に利水を兼ねたる方 建中湯の症に水気を兼ねる者か逍遙散の症に痛を帯る者か何れにも広く用うべし」

尾台榕堂「類聚方広義」頭注

「婦人血気痛（月経痛）小便不利は此の方に宜しき者あり」

龍野一雄「漢方医学大系」

「虚証、貧血性、冷え性の人で神経症状を訴える」
「その訴えは一言にして尽せは取りとめのない、何処がどういふことのないような訴えでしかも訴えることが多く（中略）」
「不定な訴えで全体的に亘っているものは全体的體質的に取扱うのが正しい」

和血+利水「建中湯証+水気」「逍遙散証+痛み」
神経症状 → 全体的體質的に把握

例をご紹介します。

矢内原 症例は25歳の女性で、主訴は月経困難症、月経前症候群（PMS）でむくみ、下腹部痛、眠気を認めていました（図11）。市販の解熱鎮痛薬を服用しても月経痛が改善せず、以前に漢方薬（当帰芍薬散、加味逍遙散）を3ヵ月間服用しましたが効果は不明とのこと、今回はピルの処方の希望にて来院されました。

初診時診断は月経困難症、PMSであり、低用量ピル（LEP）の処方を開始しました。LEPの服用で症状はほとんど軽快に向かっていましたが、LEPの休薬時に痛みが少し残ることと、足の冷え、顔のむくみが改善しないため漢方薬の併用を希望されました。所見から水滯と瘀血を考へて当帰芍薬散を処方したところ、3ヵ月後に症状は改善し、より快適になったとのこと、現在もLEPと当帰芍薬散の併用を継続しています。

月経困難症は、月経に随伴して起こる病的症状であり、月経時あるいは月経直前より始まる強い下腹部痛や腰痛を主症状とします。下腹痛、腰痛、腹部膨満感、嘔気、頭

図11 月経困難症（25歳 女性）

主訴

月経困難症、PMS（むくみ、下腹部痛、眠気）

現病歴

- 市販の解熱鎮痛薬を服用しても月経痛が改善しない。
- 以前、漢方薬（当帰芍薬散、加味逍遙散）を3ヵ月間服用したが、効果は不明であった。
- ピルの処方を希望して来院された。

所見

身長：162cm、体重：52kg、BMI：19.8、血圧：112/83mmHg。
超音波検査：正常、血液検査：特記すべき異常なし。

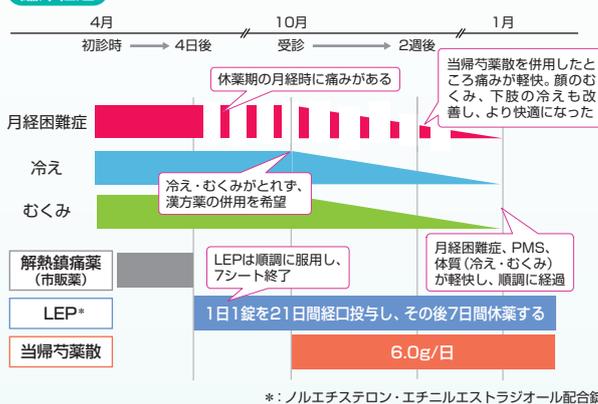
東洋医学的所見

- 舌診：淡白 湿潤
- 腹診：軟弱 下腹部抵抗・圧痛
- 脈診：細弱
- 足冷、下腿浮腫

初診時診断

月経困難症、PMS

臨床経過



痛、疲労・脱力感、食欲不振、イライラ、下痢および憂うつなど症状が多彩であり、東洋医学的観点からも多くの病態が混在すると考えられます。

本症例では、月経困難症でLEPの服用でも休薬期の月経時に痛みを生じていたため、当帰芍薬散を併用したところ、痛みが軽快しQOLが改善しました。LEPの服用で改善し得るホルモン変動の症状とは別に、証に基づいた漢方治療を併用することで症状を改善することができると考えられます。

木村 LEPによる治療では、冷えや浮腫の改善効果は期待できませんか。

矢内原 LEPの服用で黄体ホルモンの分泌が抑制されるので、黄体ホルモンによる水分貯留作用による浮腫は軽快しますが、女性ホルモンに起因しない冷えによる浮腫や瘀血症状などは改善しきれないので、漢方薬の併用が必要になることがあります。

● 西洋薬の服用で改善しない便秘症に当帰芍薬散の追加で改善した1例

木村 西洋薬の服用で改善しない便秘症に当帰芍薬散を追加することで症状が改善した若年女性の症例を岸本先生にご紹介いただきます。

岸本 症例は27歳の女性で、主訴は便秘、腹部膨満感です(図12)。18歳頃から便通が悪く、1行/3~5日でコロコロ便でした。食事内容に気を付けて様子を見ていましたが、改善はありません。約1ヵ月前から腹部膨満感が出現したため、酸化マグネシウムを服用しましたが便秘症状は改善せず、腹部膨満感も改善しないため当院を受診されました。

東洋医学的所見から、酸化マグネシウムに加え当帰芍薬散の併用を開始しました。再来時(7日目)に、「服用開始3日目くらいからコロコロ便ではなく普通便になり、腹痛もなく、排便は1行/1~2日であり、腹部膨満感も消失した」とのことでした。現在も服用を継続中ですが、良好に経過しています。

当帰芍薬散は、補血作用を有する生薬と利水作用のある生薬で構成されています。本症例は血虚(月経時腹痛・腰痛、舌診：暗赤色)・水毒(月経時下痢傾向、下肢浮腫、脈診：滑脈)の状態であり、当帰芍薬散が良かったと考えています。さらに「血」を補う当帰は、調経作用、補血作用、止痛作用のほかにも潤腸作用も有するため、「血」の異常を伴う便秘症に当帰芍薬散を処方することで改善する可能性

が示唆されました。

木村 この患者さんは月経前に下痢や腰痛・腹痛があるということでしたが、それらの症状はどうなりましたか。

岸本 それらの症状も改善しました。月経前の腹痛・腰痛に服用していた鎮痛剤も不要となり便通も良好で、かなり状態が良くなったと喜んでおられました。

● 子宮筋腫による頻尿・下腹部膨満感に対して当帰芍薬散が奏効した症例

木村 子宮筋腫による頻尿・下腹部膨満感に当帰芍薬散が奏効した症例を中村先生にご紹介いただきます。

中村 症例は45歳の女性です(図13)。最大11cm大の多発子宮筋腫があり、手術の希望なく婦人科にて経過観察中です。頻尿や残尿感などの症状があり、当科を初診しました。冷えて症状が増悪するとのことでした。

頻尿に対してはソリフェナシンコハク酸塩を、子宮筋腫の合併に加え冷えにより頻尿が悪化するなどの症状に当帰芍薬散を処方しました。1ヵ月後に便秘が悪化したため、当帰芍薬散の服用のみで経過をみることにしました。3ヵ月後には冷えなどの症状は改善し、同時に頻尿症状も改善を認めました。1年後の現在に至るまで、当帰芍薬散の投与

図12 便秘症(27歳 女性)

主訴
便秘、腹部膨満感。

現病歴

- 18歳頃から便通が悪く、1行/3~5日でコロコロ便。食事内容に気を付けて様子を見ていたが改善なし。
- 約1ヵ月前から腹部膨満感が出現。酸化マグネシウムを服用したが、コロコロ便は変わらず。
- 腹部膨満感も改善しないため、X月22日に当院を受診した。

身体所見/東洋医学的所見

身長:154cm、体重:46kg、BMI:19.4

- 月経不順なし
- 月経前に下痢傾向
- 月経前に腰痛、腹痛
- 足の張り(浮腫)が気になる
- 脈診:沈滑
- 舌診:暗赤色 薄白苔 舌下静脈拡張
- 腹診:腹力2/5 両臍傍圧痛

治療・臨床経過

- 酸化マグネシウム(750mg/日)に加え、当帰芍薬散エキス細粒(6g/日)で治療を開始した。
- 初診より7日目に再来。「服用開始3日目くらいからコロコロ便ではなく普通便になった。腹痛もなく、排便は1行/1~2日、腹部膨満感も消失した」
→ 継続服用希望あり、現在服用継続中。排便状態に変化なし。

図13 子宮筋腫(45歳 女性)

現病歴

- 最大11cm大の多発子宮筋腫があり婦人科通院中。
- 手術の希望なく経過をみていたが、頻尿や残尿感などの症状があり、X年4月に当科を初診。冷えて症状が増悪あり。

身体所見/東洋医学的所見

- 身長:156cm、体重:51kg、BMI:21。
- 中肉中背、色白、手足の先は冷たくときどき痛む。
- 便通は1~2日に1回。
- 食欲は正常。浮腫みやすく、疲れやすい。
- 脈診:沈細
- 舌診:淡紅 先端はやや紅、薄白苔、舌下静脈怒張あり
- 腹診:腹力弱、胃下振水音軽度、右下腹部に軽い圧痛あり

臨床経過

頻尿: 初診時(4月)から徐々に改善してきて(7月)冷えが改善してきた。

冷え: 初診時(4月)から徐々に改善してきて(7月)冷えが改善してきた。

下腹部膨満感: 初診時(4月)から徐々に改善してきて(7月)下腹部膨満感は以前よりずっと良くなった、時々膨満感がある。

ソリフェナシンコハク酸塩: 5mg/日 (頻尿に対して処方するも便秘の悪化があり、中断)

当帰芍薬散エキス細粒: 6.0g/日 (子宮筋腫合併、冷えにより頻尿悪化などの症状があり処方)

当帰芍薬散で経過をみている閉経までは当帰芍薬散は続けたいとの希望あり

第二部

のみで経過をみていますが、下腹部膨満感は初診時よりもかなり改善しました。閉経までは当帰芍薬散を服用したいとの本人の希望で、現在も服用を継続しています。

木村 冷えて頻尿になる方が多いと思いますが、先生はどのような生活指導をされていますか。

中村 女性は冷えが多いですが、冷えて頻尿症状が悪化することは多くみられるので、腹部や腰部はカイロを貼って温めていただき、ソックスを履いて足先が冷えないようにしていただくなどの指導をしています。

● 月経前の口唇の荒れ、高齢者下腿浮腫に当帰芍薬散が有効であった症例

木村 皮膚科での当帰芍薬散の活用例2例を佐々木先生にご紹介いただきます。

佐々木 症例1は27歳の女性で、主訴は3日前からの口唇の荒れです(図14)。1年前より、月経開始3日前から口唇が荒れるとのこと。今まではワセリンの外用で月経開始とともに治っていましたが、今回は治らないため当科を受診されました。月経前3日間に胸の張り・四肢むくみがあり、月経期間中は軟便気味です。月経周期は順調です。月経初日のみ市販の鎮痛剤を服用していました。

当帰芍薬散とヘパリン類似物質クリームを処方したところ、口唇の荒れ・冷え・むくみが改善しました。月経痛も軽減し、市販の鎮痛剤は不要となりました。現在は、当帰芍薬散を月経開始の1週間前から月経開始後3日間服用し、その期間中は糖分・冷飲食を控えるようにアドバイスしています。

木村 食事指導をされていますが、治療効果に影響はありますか。

佐々木 治療効果に影響はあると思いますし、患者さんも効果の違いを実感されています。

木村 次に、当帰芍薬散を高齢女性に使用して有効であった症例について、佐々木先生にご紹介をお願いします。

佐々木 症例は80歳の女性で、主訴は下腿が腫れぼったい(図14)。左下腿打撲後皮下血腫・蜂窩織炎・皮膚潰瘍の治療軽快後、以前より下腿が腫れぼったく、ひどくなると左膝関節症のための痛みが強くなり、さらに軽微な刺激であちこちに皮下出血斑ができるとのことでした。皮膚表面は乾燥して保湿剤を外用中ですが、皮下は水っぽく腫れぼったい状態でした。

当帰芍薬散を処方したところ、2週間後の再診時には腫れが軽減し、左膝痛が現れなくなったとのこと、現在も当帰芍薬散を継続服用中です。

当帰芍薬散は月経困難症や更年期症候群に頻用される処方ですが、基本は脾虚・寒証の方の津液停滞・血虚・瘀血のいろいろな症状に用いられる処方であると捉えています。

木村 「表面が乾燥して皮下が水っぽい感じ」を血虚と水毒と考えられたのですか。

佐々木 たとえば、心不全などがある高齢者で比較的“チャポツとしている”方にこのような所見があります。

図14 皮膚科領域における当帰芍薬散の応用例

症例1 月経前の口唇の荒れ(27歳 女性)

主訴

3日前から口唇が荒れている。

現病歴

- 1年前より、月経3日前から口唇が荒れる。ワセリン外用で月経開始とともに治っていたが治らないため受診した。
- 月経前3日間、胸の張り・四肢むくみ。月経期間中は軟便気味。
- 月経周期順調、初日のみ市販鎮痛剤を服用。

東洋医学的所見

- やせ型、色白、手足腹部に冷え、口唇は白っぽく乾燥・浅い亀裂。
- 脈診：沈弱
- 腹診：腹力2/5、心下振水音
- 舌診：淡白、胖大、湿潤、歯圧痕

臨床経過

- 当帰芍薬散エキス細粒(6.0g/日)、ヘパリン類似物質クリームを処方。口唇の荒れ・冷え・むくみが改善、月経痛軽減(鎮痛剤不要となる)。
- 月経開始前1週間から月経開始後3日間服用を継続。服用期間中は糖分・冷飲食を控えるようアドバイス。

症例2 下腿浮腫(80歳 女性)

主訴

下腿が腫れぼったい。

現病歴

- 左下腿打撲後皮下血腫・蜂窩織炎・皮膚潰瘍治療後。
- 以前より下腿が腫れぼったくひどくなると左膝が痛くなる。
- 軽微な刺激であちこちに皮下出血斑ができる。

既往歴

- 左乳癌：術後レトロゾール服用中。
- 左膝関節症。

東洋医学的所見

- 水肥り、手足腹部に冷え、両足首などに細絡がめだつ。
- 皮膚表面は乾燥(保湿剤外用中)、皮下は水っぽく腫れぼったい。
- 脈診：沈弱
- 腹診：腹力2/5、心下振水音
- 舌診：淡白、胖大、湿潤

臨床経過

- 当帰芍薬散エキス細粒(6.0g/日)を処方。
- 2週間後再診時、腫れが軽減し左膝痛が出なくなった。

木村 高齢になると乾燥症状が現れてきますが、そのような状態での血虚と水毒の診方ということで非常に参考になりました。また、下腿浮腫はどれくらいの期間で軽快されましたか。

佐々木 2週間後の再診時には見た目での変化はありませんが、自覚症状の重だるさと膝の痛みがなくなったとおっしゃっていました。

● **めまい・耳鳴り・繰り返す胃腸炎に当帰芍薬散が奏効した症例**

木村 陣内先生から高齢者の症例をご紹介します。
陣内 症例は86歳の女性で、主訴はめまい、耳鳴り、胃腸炎を繰り返す(図15)。良性発作性頭位眩暈症の既往が

あります。家事・介護の負担が増えたことを契機にX-2年からひどいめまいのため短期入院を繰り返し(3回/年)、体力消耗から体重が5kg以上減少してしまいました。六君子湯をベースに、苓桂朮甘湯をめまい・耳鳴りの症状に使用することで、めまいの頻度は軽減していましたが、X年9月に本人より当帰芍薬散の服用を希望されました。

六君子湯と当帰芍薬散を処方したところ、1ヵ月後には「体力がついて元気になった!」「耳鳴りが消えた」と喜んで来院されました。ご本人の希望で当帰芍薬散の服用量を増量したところ、経過は良好でめまいで苦しむことがなくなり、胃腸炎も起こさなくなりました。10ヵ月後には体重が約2年前と同程度にまで増量しました。

本症例は天候や気圧の変動時に増悪するめまいだったため「水」の病態があることは明らかでしたが、虚勞・筋力低下・冷え・皮膚乾燥などの所見から「血虚」がベースにあり、当初から補血を考慮すべき症例であったと考えています。

木村 高齢女性の場合は、たとえ患者さんの訴えが少なくても「血虚」の存在を考える必要があるということですか。

陣内 高齢者では本症例のように単に患者さんの訴えだけでなく、全身状態を総合的に診ることの重要性を実感した症例でした。

● **コロナ罹患後の嗅覚障害に当帰芍薬散を用いた症例**

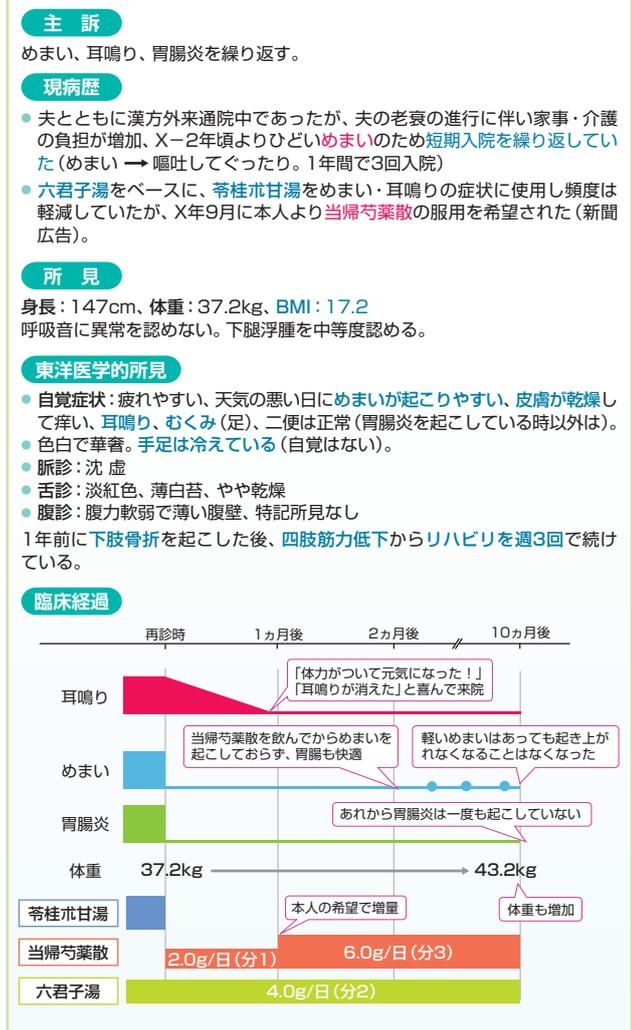
木村 新型コロナウイルス感染症(コロナ)罹患後に嗅覚障害などの後遺症が問題となっていますが、当帰芍薬散で症状が改善した症例を新谷先生にご紹介いただきます。

新谷 症例は42歳の女性、主訴はコロナ後遺症で、嗅覚障害(焦げたにおいがする)です(図16:次頁参照)。

X年8月4日に感冒症状があり、5日にPCR検査にてCovid19 陽性と判定され、6日に嗅覚障害に気づきました。9月22日に嗅覚障害が続いているため上咽頭擦過療法(EAT)を希望して当院を初診されました。静脈性嗅覚検査(アリナミンテスト)では嗅覚低下があり、また亜鉛サプリメントを服用していましたが、亜鉛値は低下していました。

当帰芍薬散、ステロイド点鼻薬の処方に加え、EAT1回/週を施行しました。嗅覚障害は、10月9日にはだいぶ回復し、X+1年2月21日には改善はしているものの変動があり、仕事が忙しいと嫌なおいが出てくるが仕事は罹患前と同様のペースで行えるようになっていたとのこと。

図15 めまい・耳鳴り・繰り返す胃腸炎(86歳 女性)



第二部

図16 コロナ罹患後の嗅覚障害(42歳 女性)

主 訴

コロナ後遺症、嗅覚障害(焦げたにおいがする)。

既往歴

2年前より片頭痛(バルプロ酸ナトリウム、エトトリプタン臭化水素酸塩)、便秘(ルピプロストン)。

現病歴

- X年8月4日:感冒症状があり、5日 PCR検査でCovid19 陽性、6日に嗅覚障害に気づく。
- X年9月22日:嗅覚障害が続いている。コロナ後遺症の治療として上咽頭擦過療法(EAT)希望で当院を受診した。鼻内に異常所見なし。

検査所見

- 静脈性嗅覚検査(アリナミンテスト)、嗅覚低下あり(開封時の認知0、潜伏時間 40秒、持続時間 20秒。何のにおいかわからない)。
- 異臭症(食べ物が古い木材のにおいがする)。
- 亜鉛サプリメント10mg/日の服用中だが、亜鉛値は低下(67 μg/dL)。

身体所見/東洋医学的所見

- 身長:158cm、体重:53kg、BMI:21.2、血圧:106/68mmHg。排便:1行/2~3日、排尿:6回、夜間尿:1回、足のむくみ、冷えがある。
- 気血スコア:血虚 16点、瘀血 35点、気虚 6点、気うつ 26点、気逆 4点、水滯 18点。
- 舌診:淡い色、舌下静脈怒張(-)、やや乾燥
- 脈診:沈弱
- 腹診:胸脇苦満(-)、左右瘀血の圧痛(+)、臍下不仁(+)、腹力 2/5

→ 陰虚症で水毒、瘀血・血虚を認める

治 療

当帰芍薬散エキス細粒(6g/日)、ステロイド点鼻薬、EAT1回/週。

臨床経過

- X年10月9日:臭いはだいぶん回復、煙臭さはあるが薄れてきて、頭痛も改善、焦げたにおいはする、揚げた肉はココア臭がする、仕事が忙しいとおいかわからなくなる、異臭がする。
- X+1年2月21日:嗅覚障害は7→2点まで改善したが、変動はある。仕事が忙しいと嫌なにおいがしてくる。便通が改善、仕事は通常通り行える。

コロナ後遺症問診(初診時→治療後)

- 倦怠感:4→0
 - 頭痛:8→0
 - 気分の落ち込み:2→0
 - 嗅覚障害:7→2
 - 活動後のだるさ:3→0
 - 咳:3→0
 - しびれ:2→0
 - 思考力低下:2→0
 - 味覚障害:6→2
- (いずれも/10点)

コロナ後遺症では、発症早期に高率に嗅覚・味覚障害が³⁾発生することが知られています。嗅覚障害は病態別に気導性嗅覚障害(嗅粘膜の炎症や浮腫、嗅裂の閉塞)、嗅神経性嗅覚障害(感冒後嗅覚障害)、中枢性嗅覚障害(脳挫傷、認知症、パーキンソン病など)に分類されますが、コロナ後遺症の嗅覚障害は、感冒後嗅覚障害に準じた治療が行われます。

「嗅覚障害ガイドライン」²⁾では、感冒後嗅覚障害に対して当帰芍薬散が提案されています(推奨度C)。感冒後嗅覚障害ではウイルスによる嗅神経線維の変性脱落が主病態で、嗅神経は神経細胞としては特異な再生能力を有してお

り、神経成長因子(Nerve growth factor: NGF)が再生促進作用を有します³⁾。当帰芍薬散の服用で再生嗅細胞、幹細胞である基底細胞が増加し、1年後の改善率は約80%と報告されています⁴⁾。

本症例で併用したEATは、塩化亜鉛液を用いた上咽頭擦過による診断と治療であり、後鼻漏、咽頭痛、倦怠感、発熱、頭痛、身体の痛み、息苦しさ、咳、動悸、思考力の低下や嗅覚障害(焦げたにおいなどの異臭症)、味覚障害などに有効であり、コロナ後遺症の症状と重複することから併用しました。

木村 当帰芍薬散の服用期間はどれくらいが適当ですか。

新谷 約3ヵ月間の服用をお勧めしています。

木村 コロナ後遺症の嗅覚障害に対して、その他にどのような処方を用いていますか。

新谷 当帰芍薬散の他には人参養栄湯や加味帰脾湯が有効との報告があります。

● 当帰芍薬散の症例

木村 シンポジストの先生方から、いろいろな症例をご紹介いただきました(図17)。体格は比較的痩せ型が多く、血虚・瘀血では月経関連症状、高齢患者さんの乾燥症状や皮下の水毒の症例もありました。また、冷えは多くの症例で見られていました。

月経関連症状については、『金匱要略』に「婦人の腹中疼痛」の記載があります。水毒症状について、子宮筋腫によ

図17 当帰芍薬散の症例について

所見	矢内原先生	岸本先生	中村先生	佐々木先生		陣内先生	新谷先生
	25歳女性	27歳女性	45歳女性	27歳女性	80歳女性	86歳女性	42歳女性
	月経困難症	便秘症	巨大子宮筋腫による頻尿	月経前の口唇荒れ	下腿浮腫	めまい・耳鳴胃腸炎	コロナ罹患後味覚障害
体格BMI	19.8	19.4	21.0	痩せ型	水肥り	17.2	21.2
血虚瘀血	月経痛	月経前に腰痛・腹痛 舌暗赤色 舌下静脈怒張 両側臍筋圧痛	子宮筋腫	口唇荒れ 月経痛	皮下血腫 細絡	乾燥症状(皮膚・舌) 筋力低下	血虚スコア 16点 瘀血スコア 35点
水毒	顔の浮腫	月経時の下痢 下肢浮腫	頻尿	四肢浮腫	下腿浮腫	めまい 下腿浮腫	足の浮腫 水滯スコア 18点
冷えの有無	○ 下肢	—	○	○ 手足腹部	○ 手足腹部	○ 手足	○

る頻尿が冷えて増悪するという症例が提示され、大塚敬節は「冷えると小便頻数」によいと述べています。また、尾台榕堂は『類聚方広義』頭注で、「婦人血氣痛(月経痛)小便不利は此の方に宜しき者あり」と述べており、当帰芍薬散は頻尿と尿量減少の両方の水毒の病態に用いることができます。

高齢者について尾台榕堂は『類聚方広義』頭注で、「妊娠産後 下痢腹痛し 小便不利 腰脚麻痺して力無く或は眼目赤痛する者」と述べています。龍野一雄は『漢方医学体系』で虚証の血水証ということで、「血色が悪い。やや乾燥気味でありながら水っぽいようなたるんだ肌である。つまり皮下に水気を帯びてそのために血の巡りが悪くしまりがなくてたるんでいるような肌をしている」と表現されています。

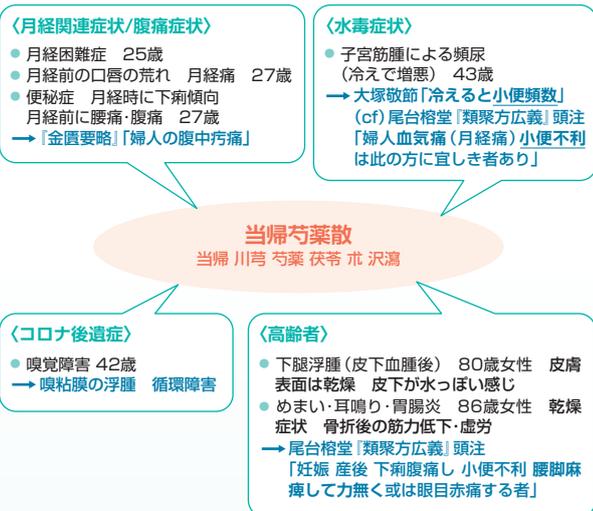
コロナ後遺症の嗅覚障害に対する有効例をご提示いただきましたが、宇津木昆台は『古訓医伝』で、「実にこの方(当帰芍薬散)は活用広くして神仙の伝方なること疑いなし。余もこれまで一切腹中に、水血の凝りたる証に用て、毎々功を得たり」と述べており、当帰芍薬散は幅広い臨床応用が期待される処方の一つであると考えられます(図18)。

葛根湯と当帰芍薬散の現代の口訣(図19)

木村 葛根湯については項背部のこわばりが大切であり、外感風寒による悪風・無汗・頭痛だけでなく、太陽膀胱経の経気の流れのうっ滞からくる項背部のこわばりにも用いられます。また、体表が突している状態は、項背部の緊張として現れる場合と体表部に限局性の緊張として蕁麻疹や乳腺炎として現れる場合があります。後者の場合は分泌物がないのを無汗と捉えて葛根湯を処方することが考えられます。

当帰芍薬散については、陰虚証の血虚・瘀血と水毒の病態に幅広く使用できる処方です。主に婦人の腹痛に用いられる処方であり、それは腹部の“冷えによる痛み”であること、神経症状については局所症状にとらわれず、虚証の血水証として全身的な体質を重視することが大切です。また、高齢者に用いる場合には水毒よりも血虚の所見が多く認められ、皮膚・粘膜の乾燥のほか、筋力低下も血虚と捉えることで当帰芍薬散が有効な場合があると考えられます。

図18 当帰芍薬散の応用



龍野一雄『漢方医学体系』
「虚証の血水証」 血色が悪い。やや乾燥気味でありながら水っぽいようなたるんだ肌である。つまり皮下に水気を帯びてそのために血の巡りが悪くしまりがなくてたるんでいるような肌をしている」

宇津木昆台『古訓医伝』
「実にこの方(当帰芍薬散)は活用広くして神仙の伝方なること疑いなし。余もこれまで一切腹中に、水血の凝りたる証に用て、毎々功を得たり」

図19 葛根湯と当帰芍薬散の現代の口訣

- 葛根湯**
- 項背部のこわばり:
 - ① 外感風寒による悪風・無汗・頭痛
 - ② 太陽膀胱経の経気の流れのうっ滞
 - 体表が突している状態
 - ① 項背部の緊張として現れる場合
 - ② 体表部に限局性の緊張として現れる場合: 蕁麻疹、乳腺炎など(分泌物がないのを無汗と捉える)
- 当帰芍薬散**
- 陰虚証の血虚・瘀血と水毒の病態に広く使用できる処方
 - 主に婦人の腹痛に用いられる処方 → 腹部の“冷えによる痛み”
 - 神経症状 → 局所症状にとらわれず、全身的な体質を重視する(虚証の血水証)
 - 高齢者では血虚 > 水毒: 皮膚・粘膜の乾燥、筋力低下(腰脚麻痺して力無く)

【参考文献】

- 1) 日本助産師会・日本助産学会: 乳腺炎ケアガイドライン 2020, 日本助産師会出版
- 2) 日本鼻科学会: 嗅覚障害ガイドライン. 日耳鼻 56: 487-556, 2017
- 3) Miwa T, et al.: Role of nerve growth factor in the olfactory system. Microsc Res Tech 58: 197-203, 2002.
- 4) Noda T, et al.: Effects of Tokishakuyakusan on Regeneration of Murine Olfactory Neurons In Vivo and In Vitro. Chem Senses 44: 327-338, 2019